楽園　2001
116.7×90.9cm

移ろう刻　2004
100.0×80.3cm

本書の特色

- 現代日本画壇で最も注目を集める作家の一人である日本画家・森田りえ子画伯の初期作品から最新作までを集大成
- 30年間の画業のなかから本画500点・素描31点を、オールカラーの大型図版で掲載
- 画題によって「花」・「人」の2部にわけ、それぞれ年代順で配列
- 新しい境地を示す金閣寺方丈杉戸絵・流響院襖絵を現地撮影で収録
- 哲学者・梅原猛氏の序文、平塚市美術館館長・草薙奈津子氏との記念対談に加え、画伯自身が制作背景・作品に込めた思いを語った作品解説63点を付し、画業の歩みを立体的に理解できるようにした
- 年譜は出品展を詳細に掲載
- インタビュー・制作風景などを収録したDVDを付す
- 作品キャプション・作品解説・年譜、全ての文章に英文を併記

森田りえ子作品集

著　者　森田りえ子
判　型　A4判変型（297×225mm）
　　上製本・函入
総　頁　356頁
定　価　25,200円（税5%込）
ISBN978-4-7842-1596-6 C0071
平成24(2012)年4月上旬刊行

内容目次

- ごあいさつ
- 序：梅原猛（哲学者）
- 図版：花／人／素描／新たなる挑戦
  （金閣寺方丈杉戸絵／流響院襖絵）
- 記念対談：森田りえ子芸術の魅力
  草薙奈津子（平塚市美術館館長）／森田りえ子
- 作品解説
- 掲載リスト
- 年譜
- 謝辞
- 付録DVD

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355
tel. 075-751-1781　fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp
e-mail：pub@shibunkaku.co.jp

注文票	発行：思文閣出版		（京都　取引コード　3402）
冊　数	冊	森田りえ子作品集　本体24,000円（税別）	ISBN978-4-7842-1596-6 C0071
お名前		tel e-mail	
ご住所	〒		
送本方法	□ 書店経由（この注文票を書店にお渡し下さい） □ 代　　引（書籍代を現品と引き替えにお支払い下さい）		書店番線印

粧　2002
198.0×130.3cm

今、最も注目されている日本画家の、初期作品から最新作までを集大成した待望の作品集。

森田りえ子作品集　1979–2011

Art Works of MORITA Rieko

平成24年4月刊行

かつて森田は私に、学生時代に伊藤若冲の絵を見て、
躍動感あふれる画面を覆いつくすエネルギーに感心したと語った。
しかし彼女の絵もまさに躍動感あふれ、そのエネルギーは画面を覆い尽くす感がある。

梅原猛（哲学者）――序より

思文閣出版

ごあいさつ

このたび森田りえ子先生の30年以上にわたる画業を集大成した『森田りえ子作品集』を刊行することとなりました。第1回川端龍子大賞展大賞を射止めた代表作「白日」から数々の屏風の傑作、舞妓、KAWAIIまで、1979年(昭和54)〜2011年(平成23)に制作した作品約540点をカラーで掲載しています。

私は先生の絵をみるたび、そこにみなぎる力強い生命の息吹に魅了されてきました。迷いのない、強くしなやかな「線」は、先生の天賦の才能がなせるわざであるとともに、地道に重ねてこられた写生や日々の修練の賜物に他なりません。頁をめくるごとに、花の馥郁(ふくいく)たる香りまでが感じられる、そんな画集となりました。

ぜひお手にとってご鑑賞ください。

思文閣グループ代表　田中　大

作家略歴

1980年　京都市立芸術大学日本画専攻科(現大学院)修了
1986年　第1回川端龍子大賞展（和歌山市立博物館)「白日」で大賞を受賞
1992年　京都府文化賞奨励賞(海外研修)を受賞
1997年　タカシマヤ美術賞を受賞
2000年　京都市芸術新人賞を受賞
2006年　京都迎賓館に「秋華」を制作
2007年　金閣寺(鹿苑寺)方丈杉戸絵および客殿天井画を制作、奈良東大寺絵馬を制作(以降毎年)
2009年　真澄寺別院流響院襖絵制作、個展「BEAUTÉS DIVINES 東方彩夢 森田りえ子展」(パリ三越エトワール)
2009〜2010年　個展 パリ展帰国記念「東方彩夢 森田りえ子展」(三越／日本橋・福岡・名古屋、大丸／京都)
2011年　京都府文化賞功労賞を受賞
2012年　日本・オマーン国交樹立40周年記念「森田りえ子日本画展」(インターコンチネンタル　マスカット／オマーン)

秋蒼穹　1992
168.0×370.0cm
(四曲一双・右隻)

まずは菊の花ですよね。川端龍子賞大賞の「白日」を図版で見て、すごく印象的でした。あれがけっきょく森田さんなのかなと思います。まずテーマが誰もがわかるものであるということ。表現の仕方が写実にのっとっているということ。そして森田さん自身に絢爛豪華な華やかさがありますが、作品にもそれが反映されていますね。

草薙奈津子(平塚市美術館館長)――対談より

この樹は1995年の阪神大震災で被災されたKさんからいただいたものです。家屋を全壊され、それでも丹精を込めて、花を育て続け、山のように蕾をつけたその年の秋、私の元へ届けて下さりました。(中略)被災地で持ち主を失い枯れていったり、焼けてしまった花や木の命がこの花一つ一つに宿っているように見えました。写生をしながら、ずっと涙が流れました。(後略)

――作品解説より

つらつら椿　1996
130.3×97.0cm

光の入江　1996
168.0×370.0cm
(四曲一双・左隻)

竜宮　2003
210.0×178.0cm

私は折れば水がほとばしり出てくる植物の茎とか、幾重にも花びらがつまった花の蕾の固さを、実際にそっと手で触れて、確かめながら写生します。人は勿論、花であっても、生命の重みが感じられる絵が描きたいと願っています。

――対談より